

# 山口県美祢市の神社石造物にみる 地域に根付いた石灰石文化

藤川 将之<sup>1)</sup>・中澤 努<sup>2)</sup>・上野 勝美<sup>3)</sup>

山口県美祢市に分布する秋吉石灰岩は古生代石炭紀～ペルム紀にパンサラッサ海において形成された海洋島アトール起源の浅海成石灰岩である(Sano, 2006). 一部は白亜紀の火成作用により熱変成を受け結晶質石灰岩(大理石)になっている. 変成・非変成を問わず, 秋吉石灰岩からは明治～昭和の時代を中心に多くの銘柄の石材が採掘された(中澤ほか, 2016).

秋吉台の南西部に位置する美祢市伊佐町河原地区は萩と下関を繋ぐ旧街道沿いにあり, 江戸時代中期から昭和中期にかけて宿駅として栄えた. 当地区の菅原神社には, 江戸時代に奉献された鳥居, 狛犬, 石灯籠, 手水鉢, 石段に結晶質石灰岩が使用されている. 神社の石造物は通常はみかげ石(花こう岩類)が使用されることが多いが, この地域では古くから地域の石材として石灰岩が利用される石灰石文化が根付いていたことが分かる.



第1図 菅原神社の表参道にある鳥居と石灯籠.  
それぞれ明和5(1768)年, 嘉永3(1850)年の奉献. 全て粗粒の方解石結晶からなる結晶質石灰岩が使用されている. 現在確認できる秋吉台大理石石材の銘柄としては「霰」や「伊佐白」に類似する. 平成30年に鳥居の一部が崩落したため, 新たに貫(横方向の下段)の部分に長さ3.2mに及ぶ大理石石材「霰」を調達し, 再建と塩酸による表面洗浄が行われた. 野外にある大理石石造物は風雨に晒され黒ずんでいくことが多いが, 洗浄により石材本来の神々しい白さを取り戻している.



第2図 社殿前の狛犬と石灯籠.  
それぞれ安政4(1857)年, 天保15(1884)年の奉献. 台座部分も含め全て粗粒の大理石からなる.



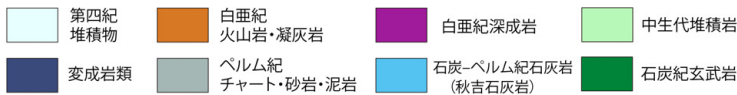
第3図 表参道の石段と手水鉢.  
奉献の銘は確認できないが, 境内の石造物や風化の状態から江戸時代の作であることが推定される.



第4図 裏参道の鳥居.  
文政4(1821)年の奉献. 表面は全体に黒くすすんでいる.

1) 美祢市立秋吉台科学博物館 〒754-0511 山口県美祢市秋芳町秋吉  
2) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター  
3) 福岡大学理学部地球圏科学科 〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈

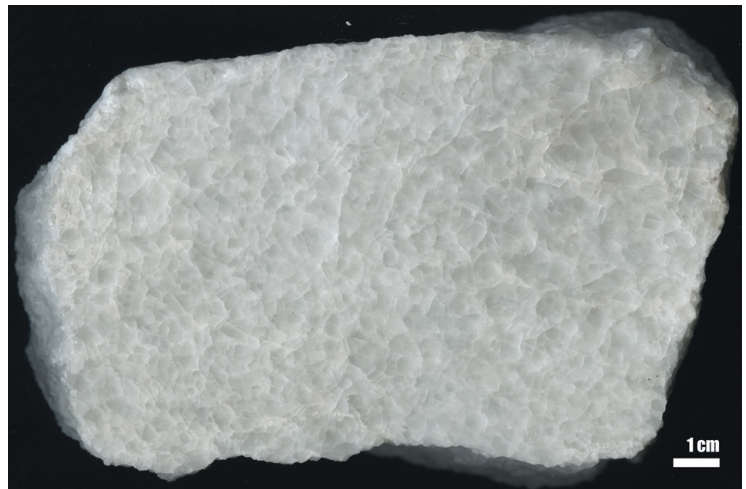
FUJIKAWA Masayuki, NAKAZAWA Tsutomu and UENO Katsumi (2023) Local limestone culture found in shrine stoneworks in Mine city, Yamaguchi Prefecture.



第5図 管原神社と「霰」「伊佐白」採石場(跡)の位置図。ベースの地質概略図は20万分の1日本シームレス地質図V2(産総研地質調査総合センター, 2023)を改変したもの。神社の位置から、江戸時代に造られた石造物の石材は「伊佐白」の可能性もある。



第6図 貫の表面仕上げ(上)と柱の方解石結晶(下)。新造の貫表面には、元来の石材に倣い「ノミ切り仕上げ」が施されている。一方で奉獻当初からの柱の表面にはノミ跡とは別に風化により凹凸が生じている。粒径2~4 mm程度、大きいもので10 mm程度の方解石結晶が観察される。



第7図 大理石「霰」採石場(有限会社安藤石材)。昭和30年代より現在まで採掘されている。「霰」は秋吉石灰岩産の白色結晶質大理石のなかでは最も粗粒な部類に属する。

第8図 大理石「霰」の研磨標本。等粒状の方解石結晶からなる結晶質石灰岩。「霰」をはじめとする於福地区の大理石は、その西側で接する白亜系石英閃緑岩を熱源とした接触変成作用を受け形成されたと考えられる。

## 文献

- 中澤 努・井川敏恵・上野勝美・藤川将之(2016) 国内産古生代大理石石材の岩相とその成因. 石灰石, no. 399, 20-43.
- Sano, H. (2006) Impact of long-term climate change and sea-level fluctuation on Mississippian to Permian mid-oceanic atoll sedimentation (Akiyoshi Limestone Group, Japan). *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 236, 169-189.
- 産総研地質調査総合センター(2023) 20万分の1日本シームレス地質図V2(地質図更新日:2023年5月10日). 産総研地質調査総合センター.

(受付:2023年9月4日)